

# 2026年10月期 第1四半期 IRミーティング資料

---

2026/4/3

# 2026年10月期 第1四半期 サマリー

## 第1四半期 実績

(単位：億円)

	2025 /1Q 実績	2026 /1Q 実績	前年 同期比	増減率
売上高	434	<b>467</b>	+ 33	+ 8%
農薬及び農業関連	346	<b>378</b>	+ 32	+ 9%
化成品	59	<b>67</b>	+ 7	+ 12%
その他	28	<b>23</b>	▲ 6	▲ 20%
営業利益	40	<b>50</b>	+ 10	+ 25%
経常利益	50	<b>62</b>	+ 12	+ 23%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	40	<b>39</b>	▲ 1	▲ 2%

参考：平均レート ¥/ドル=154      ¥/ドル=156

## 通期 業績予想

(単位：億円)

	2025 実績	2026 予想	前期比	増減率
売上高	1,705	<b>1,620</b>	▲ 85	▲ 5%
農薬及び農業関連	1,357	<b>1,270</b>	▲ 87	▲ 6%
化成品	251	<b>261</b>	+ 10	+ 4%
その他	97	<b>90</b>	▲ 7	▲ 7%
営業利益	106	<b>72</b>	▲ 34	▲ 32%
経常利益	134	<b>109</b>	▲ 25	▲ 18%
親会社株主に帰属する 当期純利益	44	<b>64</b>	+ 20	+ 46%

参考：平均レート ¥/ドル=149      ¥/ドル=150

- 農薬及び農業関連、化成品事業で出足好調、営業利益は50億円（前年同期比+10億円）
  - ✓ 海外向けは除草剤「アクシーブ」のオーストラリア向け出荷減も、米国向けがジェネリック参入を見据えた販促支援強化により増加
  - ✓ 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷大幅増
- 経常利益は持分法投資利益などにより前年同期比+12億円となるも、親会社株主に帰属する四半期純利益は持分法適用関連会社の留保利益に対する税効果を計上したことにより、1億円減益
- 通期業績予想は据え置き
  - ✓ 当第1四半期は「アクシーブ」が前倒し出荷、今後は米国ジェネリック品との競合による収益性低下を想定  
化成品事業は好調見込
  - ✓ イラン情勢の悪化により調達コスト増加の懸念

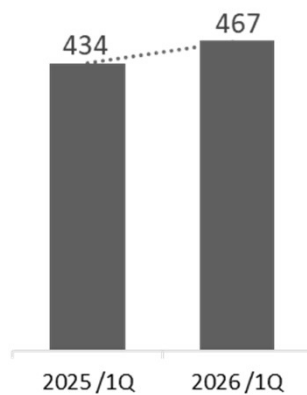
# 2026年10月期 第1四半期実績

(単位：億円)

	2025 /1Q 実績	2026 /1Q 実績	前年同期比	増減率
売上高	434	<b>467</b>	+33	+8%
売上総利益	96	<b>104</b>	+9	+9%
営業利益	40	<b>50</b>	+10	+25%
経常利益	50	<b>62</b>	+12	+23%
親会社株主に帰属する四半期純利益	40	<b>39</b>	▲1	▲2%

参考：平均レート ¥/ドル=154 ¥/ドル=156

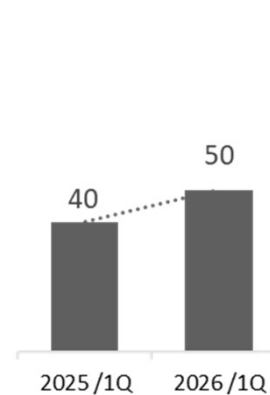
## 売上高



前年同期比 **+33** 億円

- (+) 農薬及び農業関連、化成品セグメントで出足好調
- (+) アクシーブ：+22億円

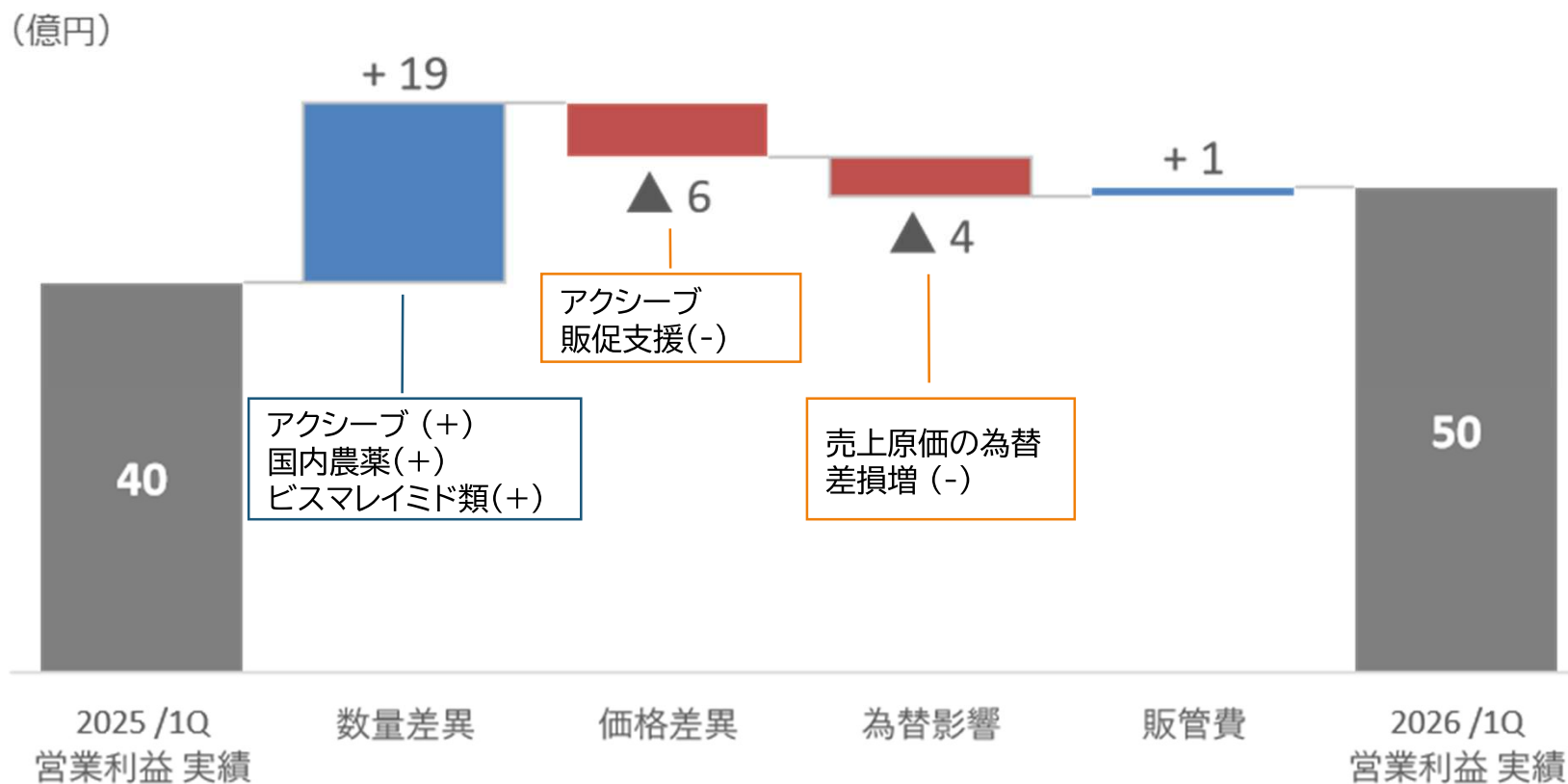
## 営業利益



前年同期比 **+10** 億円

- (+) 農薬事業の増収
- (+) 化成品事業の増収

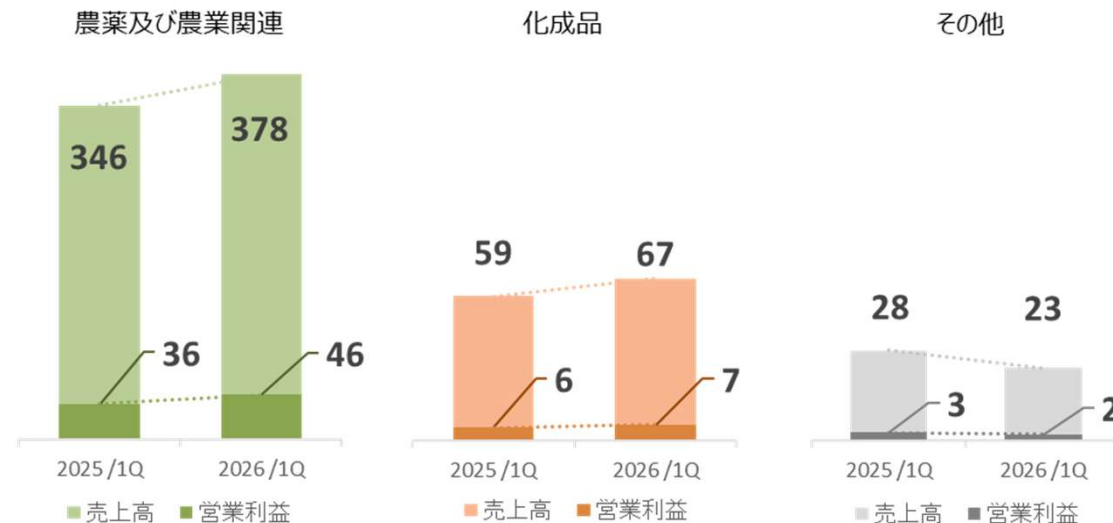
# 営業増益の要因



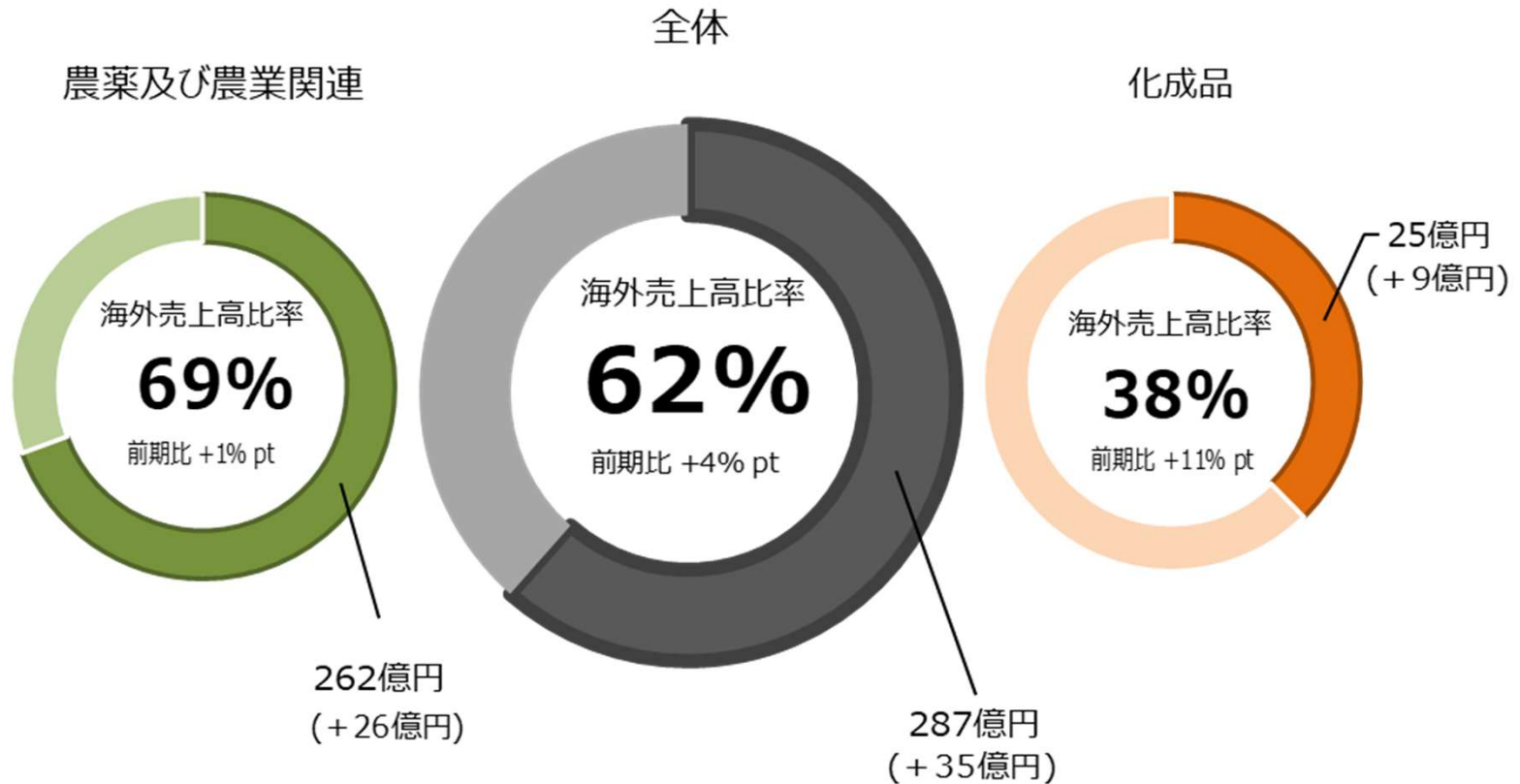
# 2026年10月期 第1四半期実績 (セグメント別)

(単位：億円)

	2025 /1Q 実績	2026 /1Q 実績	前年同期比	増減率
売上高	434	<b>467</b>	+33	+8%
農薬及び農業関連	346	<b>378</b>	+32	+9%
化成品	59	<b>67</b>	+7	+12%
その他	28	<b>23</b>	▲6	▲20%
営業利益	40	<b>50</b>	+10	+25%
農薬及び農業関連	36	<b>46</b>	+10	+28%
化成品	6	<b>7</b>	+1	+21%
その他	3	<b>2</b>	▲1	▲25%
(調整額)	▲4	▲5	▲1	-



# 2026年10月期 第1四半期実績（海外売上高比率）



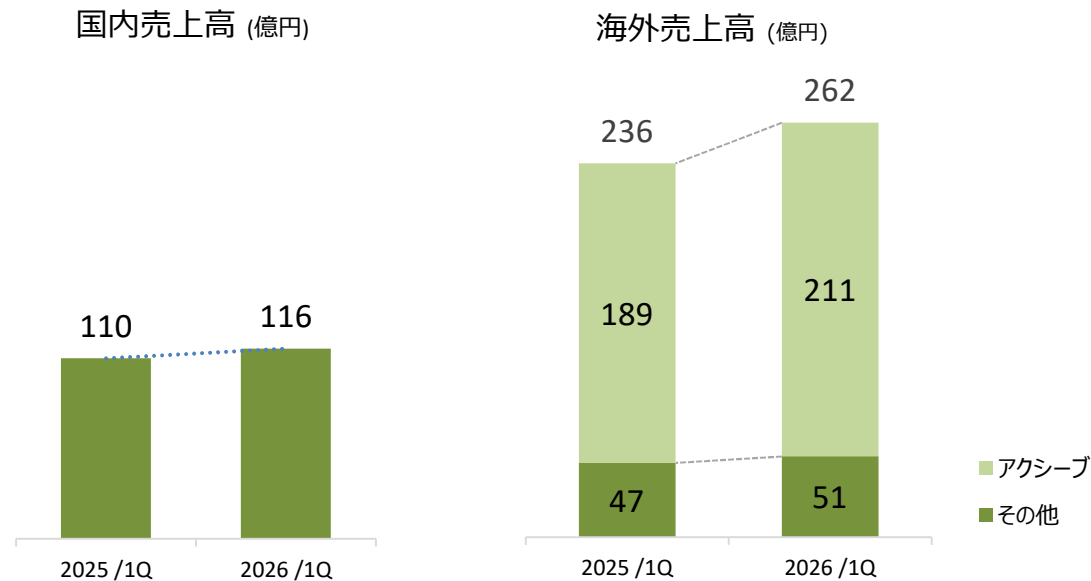
# 2026年10月期 第1四半期実績 - 農薬及び農業関連事業

## 国内

- 除草剤「エフィーダ」を含む水稲用除草剤、「ディザルタ」を含む水稲用箱処理剤が好調
- 近年のカメムシ類の発生増加による殺虫剤の需要増

## 海外

- 除草剤「アクシーブ」オーストラリア向け出荷減も、米国向けはジェネリック品参入を見据えた販促支援強化により出荷増



# 2026年10月期 第1四半期実績 -化成品事業

## 塩素化

- クロロキシレン系製品は前年対比増収で推移するも、事業環境は依然として厳しい

## 精密化学品

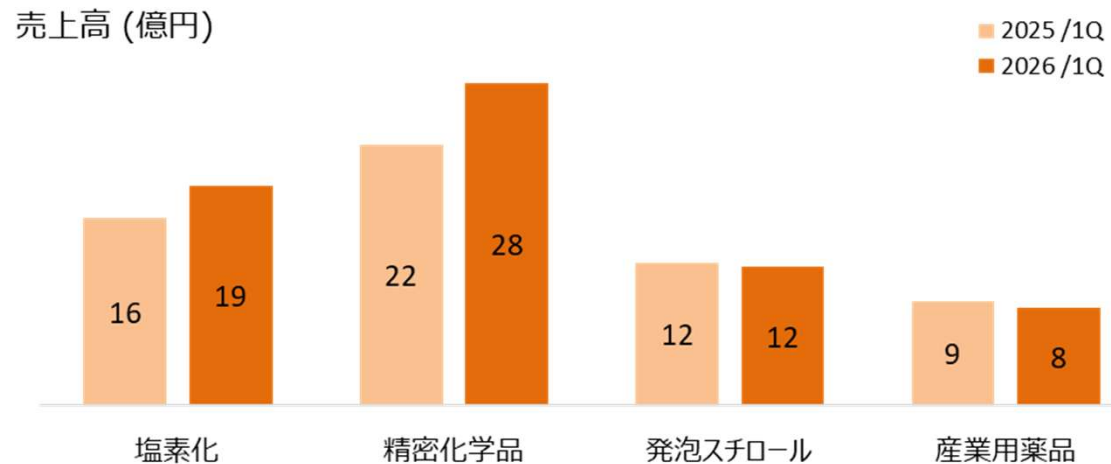
- 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要好調によるビスマレイミド類の出荷増

## 発泡スチロール

- 前年並み

## 産業用薬品

- 前年並み





# 2026年10月期 第1四半期実績 総括

## 事業全体

四半期純利益※：親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高 **467** 億円 (前年同期比 +33億円)  
 営業利益 **50** 億円 (前年同期比 +10億円)  
 経常利益 **62** 億円 (前年同期比 +12億円)  
 四半期純利益※ **39** 億円 (前年同期比 ▲1億円)

- 農薬及び農業関連、化成品セグメントで出足好調
- アクシーブ 売上高 前年同期比+22億円
- 為替差損を計上したが、持分法投資利益が前年同期比+5億円
- 四半期純利益は持分法適用関連会社の留保利益に対する税効果を計上したことにより、減益

## 農薬及び農業関連事業

売上高 **378** 億円 (前年同期比 +32億円)  
 営業利益 **46** 億円 (前年同期比 +10億円)

- 国内向けは除草剤「エフィード」を含む除草剤が好調
- 海外向けは除草剤「アクシーブ」のオーストラリア向け出荷減も、米国向けがジェネリック参入を見据えた販促支援強化により増加

## 化成品事業

売上高 **67** 億円 (前年同期比 +7億円)  
 営業利益 **7** 億円 (前年同期比 +1億円)

- 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷大幅増

## その他事業

売上高 **23** 億円 (前年同期比 ▲6億円)  
 営業利益 **2** 億円 (前年同期比 ▲1億円)

- 建設業で前年同期に複数の大型工事が完成したことなどから減収

# 2026年10月期業績予想

(単位：億円)

	2025 実績	2026 予想	増減	増減率
売上高	1,705	<b>1,620</b>	▲85	▲5%
農薬及び農業関連	1,357	<b>1,270</b>	▲87	▲6%
化成品	251	<b>261</b>	+10	+4%
その他	97	<b>90</b>	▲7	▲7%
営業利益	106	<b>72</b>	▲34	▲32%
経常利益	134	<b>109</b>	▲25	▲18%
親会社株主に帰属する当期純利益	44	<b>64</b>	+20	+46%

参考：平均レート

¥/ドル=149

¥/ドル=150

■ **売上高 1,620**億円    **営業利益 72**億円    **経常利益 109**億円

■ **通期業績予想は据え置き**

□ **農薬及び農業関連**

- ✓ 当第1四半期はアクシーブが前倒し出荷
- ✓ アクシーブのジェネリック品との競合による収益低下を想定

□ **化成品**

- ✓ ビスマレイミド類の出荷増による上振れの可能性

□ **事業環境**

- ✓ イラン情勢の悪化により調達コスト増加の懸念

# 研究開発費・設備投資・減価償却費

## 研究開発費

---

2025年度実績 **71**億円                      2026年度計画 **79**億円

(主な内容) 海外開発への取り組み強化、最先端技術の活用による研究推進

## 設備投資

---

2025年度実績 **70**億円                      2026年度計画 **59**億円

(主な内容) 生産・研究設備の更新

## 減価償却費

---

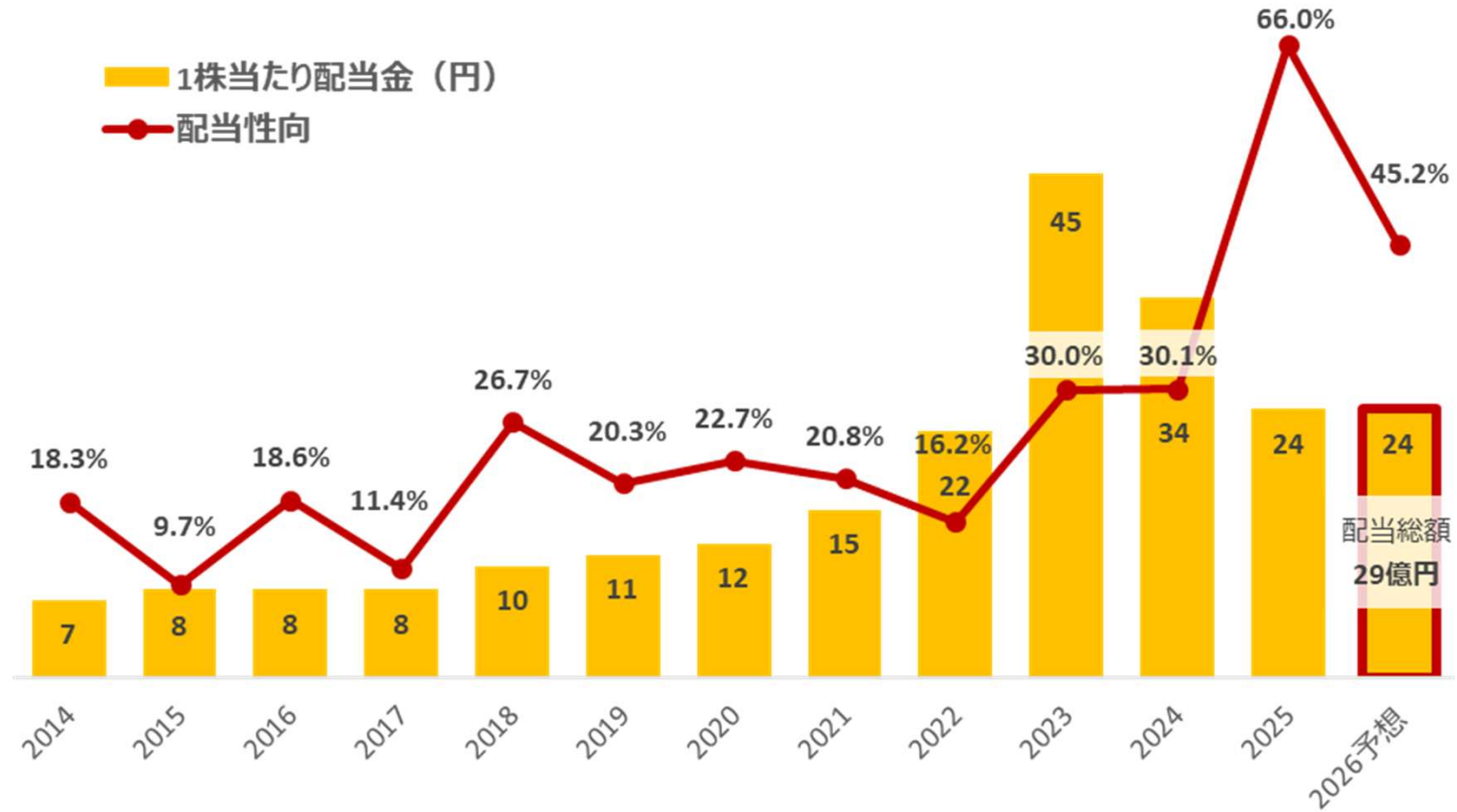
2025年度実績 **57**億円                      2026年度計画 **59**億円

# 株主還元施策

配当性向30%以上を目標

2026年度 配当予想

中間配当10円 + 期末配当14円 = 年間配当24円 (配当性向 45.2%)



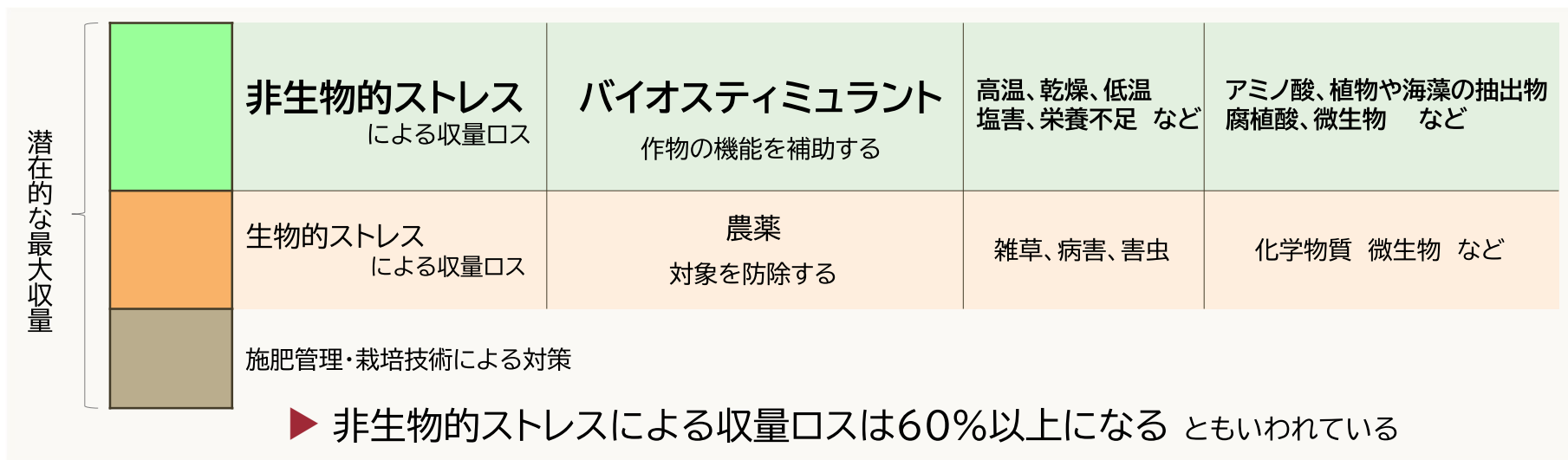
# バイオスティミュラント なつつよし® 販売開始

## ■ なつつよし®

- 主成分シコンエキスは染料植物ムラサキからの抽出物
- 植物の熱ショックタンパク質（HSP）遺伝子の発現を活性化、各種作物の高温障害の改善を期待
- 水稲では、白未熟粒の割合減少、整粒歩合が増加し、品質が向上する傾向が認められた

## ■ 「バイオスティミュラント（BS）」とは

農作物又は土壤に施すことで農作物やその周りの土壤が元々持つ機能を補助する資材であって、BS自体が持つ栄養成分とは関係なく、土壤中の栄養成分の吸収性、農作物による栄養成分の取込・利用効率及び乾燥・高温・塩害等の非生物的ストレスに対する耐性を改善するものであり、結果として農作物の品質又は収量が向上するものをいう  
（農水省 バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン）



# バイオスティミュラント なつつよし® 販売開始

## ■ BSによって期待できる効果

- 世界の人口増加や異常気象が頻発しているなか、**安定した農業生産を維持**する
- 増収、栄養成分や品質の向上により、**生産効率を改善**し、**食料の安定供給**に繋げる
- **環境負荷を低減**し、**持続可能な農業に貢献**する

## ■ BSの世界市場予測

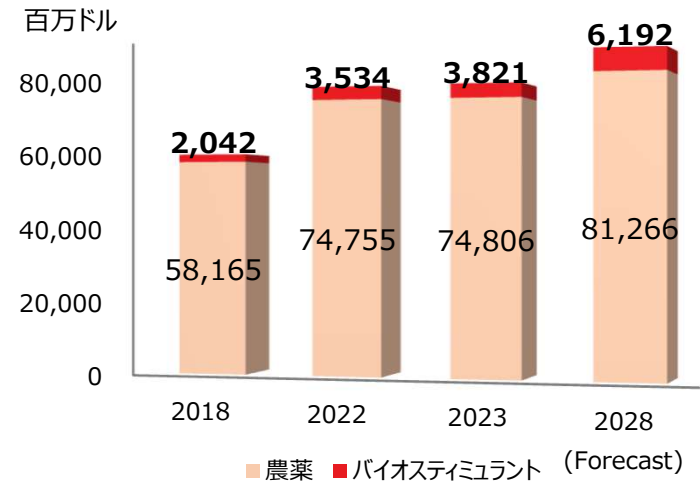
2028年には6,192百万ドル **(約9,300億円)**

2023年度-2028年度年平均成長率 **10.1%**

日本国内でも注目を集めており、今後の市場拡大が予想される

農薬・バイオスティミュラントの市場予測

Agbioinvestor より



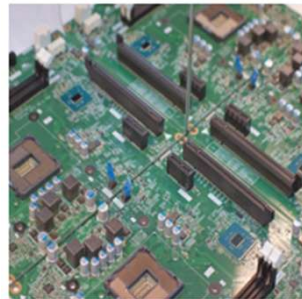
現場課題の解決と持続可能な食料生産に資するべく、農薬とともにバイオスティミュラントの開発を積極的に行います

# 化成品事業の成長ドライバー -ビスマレイミド(BMI)類

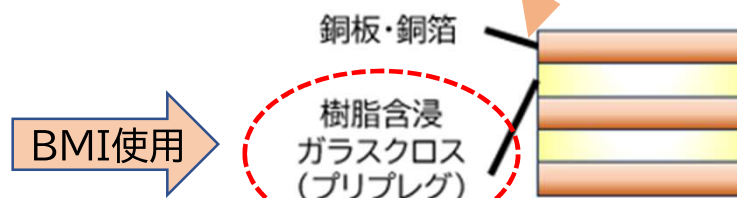
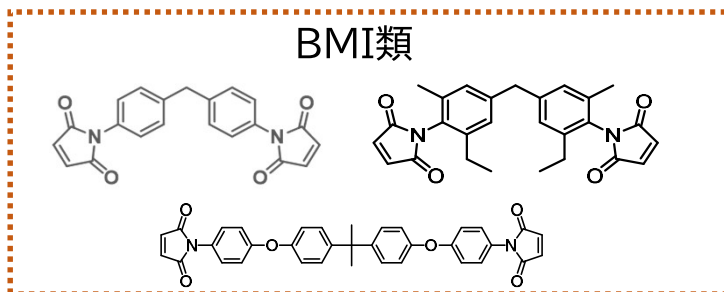
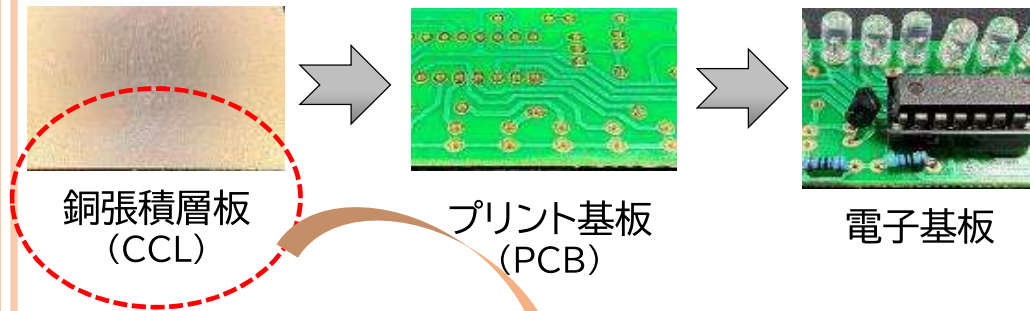
ビスマレイミド (BMI) 類	
用途	高機能性樹脂の原料
特徴	耐熱性、靱性、電気特性に優れる
市場	電子部品 (※CCL等)、先端複合材料 (航空機等)、ゴム架橋剤 (タイヤ等) ワニス・被覆材 (電車など)

※CCL = 銅張積層板

耐熱性と電気特性に優れる  
→ 電子部品に最適

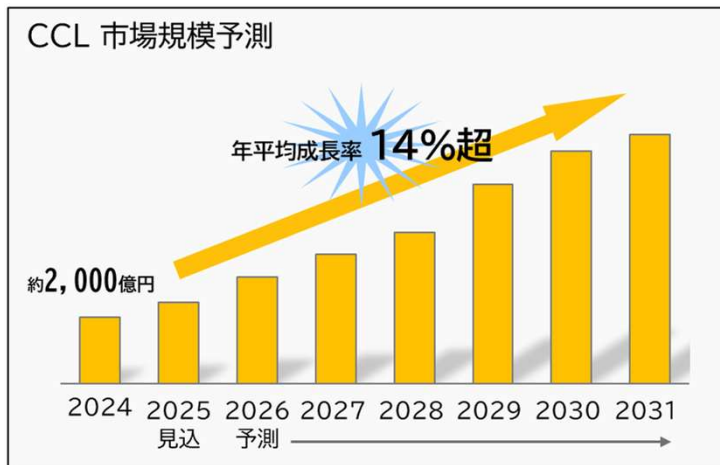
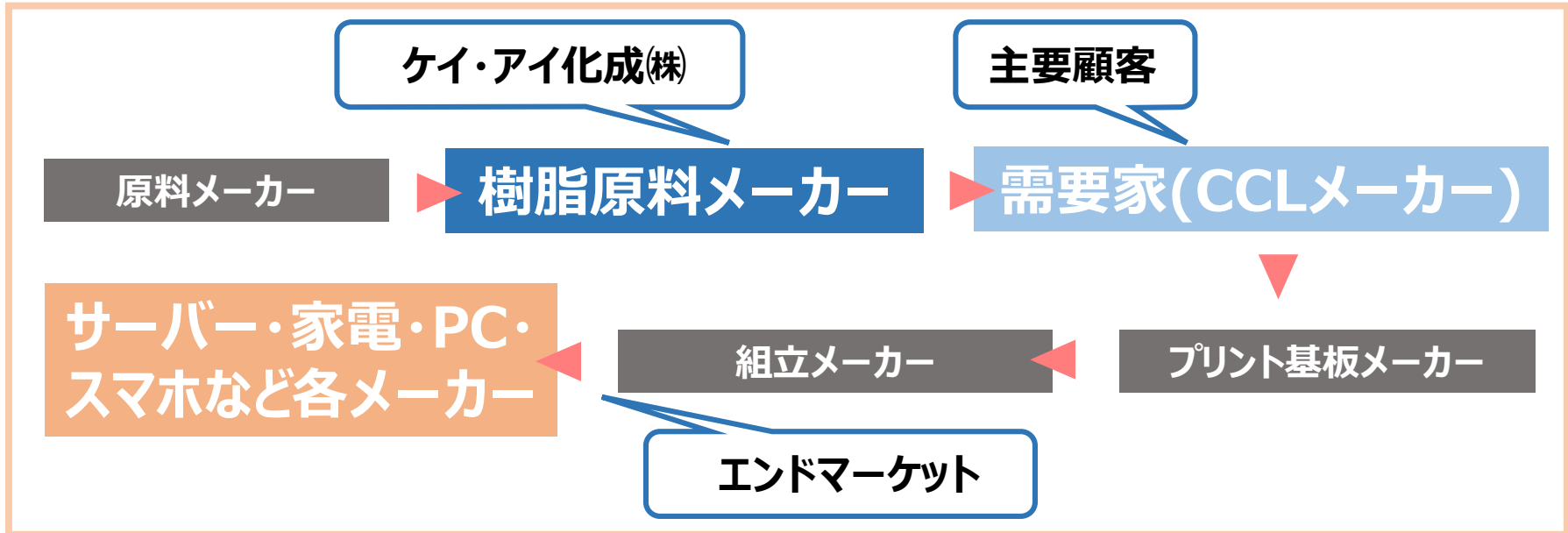


生成AIサーバー向けの電子材料  
(CCL) の需要が増加



# 化成品事業の成長ドライバー -ビスマレイミド(BMI)類

## BMI類：CCL分野でのBMI類のサプライチェーン



### 期待要素

**CCLの市場は拡大傾向**  
**BMI類も市場拡大に伴い増加を予測**

### 懸念材料

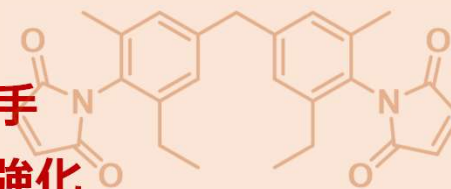
**コンペティター、新素材の参入**

# 化成品事業 - 今後の見通し

## 成長分野での事業展開 / 新たな事業領域の拡大 化成品事業を新たな柱へ

### BMI類

- 国内におけるBMIモノマー **供給量最大手**
- 新プラント本格稼働により **生産体制の強化**



### その他 精密化学品

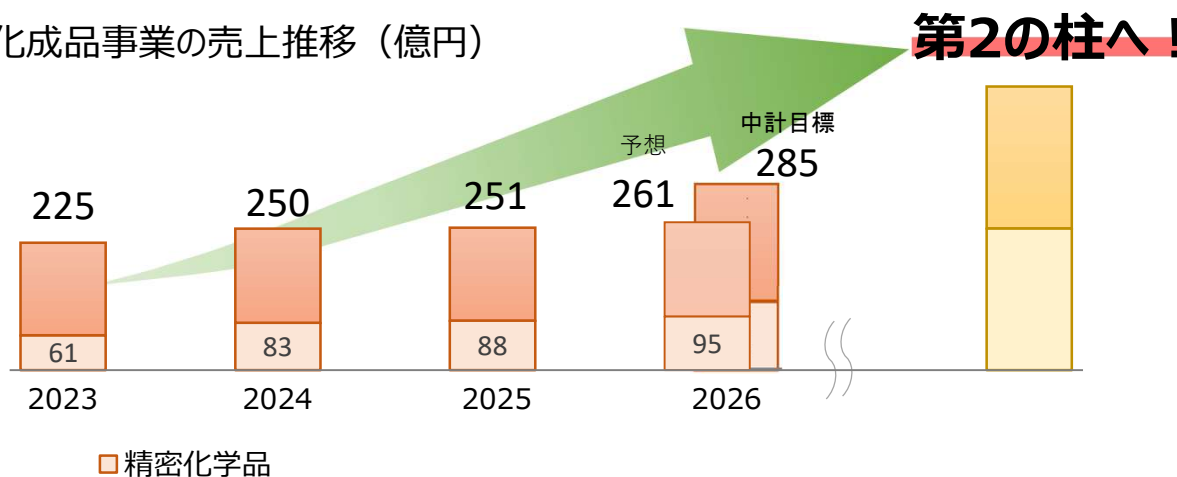
- 次世代の **新素材の開発**
- 半導体分野への **事業拡大 (高純度COSガス)**

自社除草剤主要原料 (静岡工場)

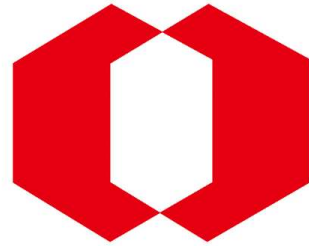
**COS**  
硫化カルボニル



化成品事業の売上推移 (億円)



自然に学び 自然を守る



**クミカ**

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>  
クミアイ化学工業株式会社  
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>